

電子カルテの活用により、共に学び高め合う
三和っ子の育成

～国語の授業を中心に、全職員で取り組む研究の日常化～

学校名	西尾市立三和小学校
所在地	〒445-0005 愛知県西尾市米野町松葉内25
学級数	16
児童・生徒数	447名
職員数／会員数	30名
学校長	柴田 幸夫
研究代表者	伊藤 吉弘
ホームページ アドレス	http://www.nishio.ed.jp/miwa-sho/index.html



小学校

1. はじめに

三和小学校では、いじめ・不登校・問題行動等に関する情報は、全職員で共有することが大切と考え、月に1回全職員による会議を行っている。いじめ・不登校・問題行動等子どもの動きや指導の経過、保護者との連絡や対応を、平成16年度までは紙媒体「やまびこノート」に記録してきた。また、コンピュータ関係では、校内ネットワークが完備され、職員数以上のコンピュータがあり、全職員が同時に使用できる環境となった。

平成17年度からは、これまで紙媒体であった「やまびこノート」を電子媒体の「やまびこノート」に変更し、そこに記録して全職員で情報を共有してきた。平成18年度から全職員一人一人が具体的目標をもって教育実践をし、その自己評価について情報を全職員が共有している。平成19年度から「やまびこノート」をより活用しやすくした上に、その他の情報も共有しやすい「電子カルテ（教育支援ソフトウェア）」を導入した。平成19年度は電子カルテに入力できる情報は文字に限られていたが、平成20年度は「パナソニック教育財団」の研究助成により、電子カルテに新たに映像情報（児童の絵、作文等）を保存できるように改良した。また、本校では、全職員による国語の校内授業研究会を平成18年度に3回、平成19年度に4回、平成20年度は7回実施した。「共に学び高め合う三和っ子の育成」を目指して研究を進め、平成21年10月に、国語の授業を中心に本校の研究発表会を予定している。そのために、全職員による授業研究会だけでなく、全職員による研究の日常化を図ることが大切であると考え。

以上のことから、「映像情報を共有できる電子カルテ」を

活用し、国語の授業を中心に、全職員で「共に学び高め合う三和っ子の育成」を目指したい。そして、職員の授業力向上と共に子どもの成長を日常的に記録することで、研究の日常化を図りたい。

2. 研究の目的

研究課題「電子カルテの活用により、共に学び高め合う三和っ子の育成～国語の授業を中心に、全職員で取り組む研究の日常化～」にせまるために、以下の2点を行う。

（1）全職員による国語の授業研究会

全職員が国語の研究授業を実施する。本校以外の外部講師を招聘し、全職員による国語の授業研究会を各学年1回の年間7回行い、その他は低・高学年（1・2・3年、4・5・6年）ブロックで行う。授業での子どもの姿や黒板に書かれた様子をデジタルカメラで撮影し、その映像情報を電子媒体として保存する。また、授業記録や研究協議会記録をスキャナーで電子媒体として保存する。

（2）研究の日常化

金曜日の朝8時20分から8時30分までの10分間を、全職員による研修や研究の時間として「金朝研」を位置づける。まず、デジタルカメラ、スキャナー、コンピュータ、電子カルテ等の操作の研修を進める。次に、「研推だより」を中心に国語の授業について提案や共通理解を図る。そして、研究単元を設定しその単元を通して、抽出児を中心に毎時間の授業の様子を電子カルテに記録したり、毎時間黒板に書かれた内容を記録したりする。また、子どもたちに学びの定着と活用 の場を保证する環境の整備を進め、日々の子どもの作文や作

品を映像として保存する。

3. 研究の方法

電子カルテ（教育支援ソフトウェア）は、データベースソフトで、一度入力されたデータを関係書類のすべてに反映させることができる。そのため、ネットワークを活用し、全職員がリアルタイムで正確な情報を共有できる。また、「子どもの記録」の他に「連絡関係」「児童名簿の管理」「設備備品管理」「成績処理」「会計処理」「カリキュラムの実践」も含めた総合的な教育支援ソフトウェアである。児童名簿は、1年生で入力したデータが6年生まで継続され、児童に関する記録が6年間蓄積することができる。そこで、平成20年度に「パナソニック教育財団」の研究助成により、「映像情報を共有できる電子カルテ」にすると共に全職員による研究の日常化をサポートできるように開発やカスタマイズを進める。

4. 研究の内容

（1）全職員による国語の授業研究会

国語の授業研究を進めるにあたり、新学習指導要領で「言語力」がクローズアップされ、言葉を通して問題解決ができる学びが必要とされてきたことをうけ、「言語力を育む授業作り」に取り組むことにした。そして、次の3点をその手だてとする。

① 説明文教材を核に言語力の育成

「分かりやすく伝える」ためには、その方法を知らなければならない。筆者の主張が論理的に述べられ、明快な三段構成の文章構成を持つ説明文教材を核に授業を進めることにした。それにより、筆者の主張とともにその述べ方の分かりやすさを学び・真似ることから、論理的で「分かりやすく伝える」表現力を身につけられると考え、以下の2点で実践する。

(ア) 三和小オリジナル「説明文教材でつけたたい力」の具体化

(イ) 言葉の理解をよりの確にする手作り教具の工夫をする



② 実感と活用を強化する単元構想

実感を伴った正確な読み取りをするために、学んだ言葉や表現形式を活用する場面や体験および体験的活動を取り入れた単元を構想する。それにより活用しようとする意欲を高め、実感をもって分かりやすく伝え合い、受け止め合えと考え、そのために以下の3点で実践する。

- (ウ) 体験的な活動を関連づける（動作化・具体物で操作する・ビデオ視聴）
- (エ) 直接体験をする
- (オ) “調査して調べる”を取り入れる

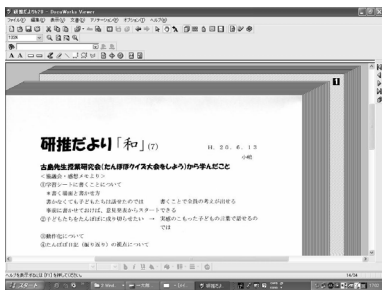
③ 言語活動を仕組んだ授業プロセス

国語の授業では、必ず書くことを位置づけ、伝え合いや活動を振り返る場を設定したプロセスを仕組む。学習した話型等の基本のモデルを提示して学習を進めることで、どの子にも国語科でねらう基礎的な知識・技能を習得させ、子どもたち一人一人の言語力をのばそうと考え、以下の2点で実践する。

- (カ) 授業プロセスを示す学習シートの開発
- (キ) 関わり合いを支える対話とグループ学習の位置づけを取り入れる

（2）研究の日常化

金曜日の朝8時10分から8時30分までの10分間を、全職員による研修や研究の時間「金朝研」と位置づけ、国語の授業について「研推だより『和』」を中心に進めた。「研推だより『和』」は、1年間で34号まで発行することができ、このデータも1つの電子データとして、記録されているので、いつでも閲覧することができる。



5. 研究の経過

平成20年度は「パナソニック教育財団」の研究助成により、次の3点ができるようになった。

（1）授業研究会の記録

全校職員による授業研究会を7回実施し、授業の指導案、教材、教師の記録、児童の記録、抽出児の記録、協議会の記録、講師の先生の資料を電子データ化し、いつでもその記録

が閲覧できるようにした。操作方法は、【1】画面の【金朝研】をクリック→【2】画面の【国語】をクリック→【3】画面の【1年内木先生授業】をクリック→【4】画面の【教師の記録】をクリックすれば見ることができる。

（2）「絵をかく会」の作品の記録

全校児童が行った「絵をかく会」の作品と児童一人一人の顔写真とが登録され、閲覧できるようになった。絵をかく会の作品については、受賞作品だけを検索して、参考作品として児童に提示することが可能となった。

（3）電子カルテのカスタマイズ

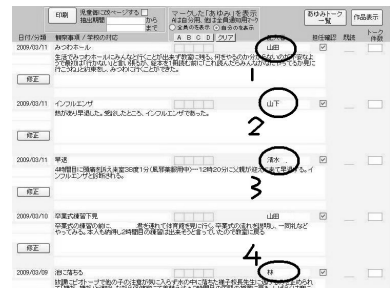
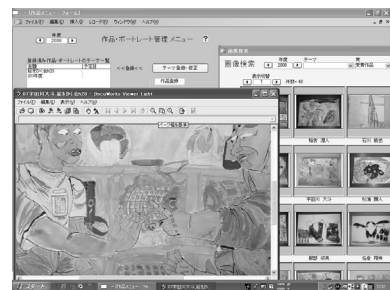
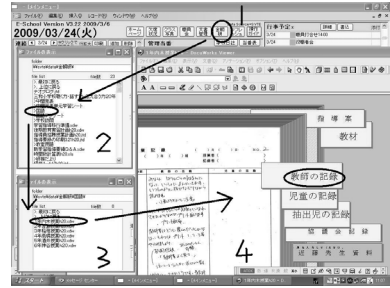
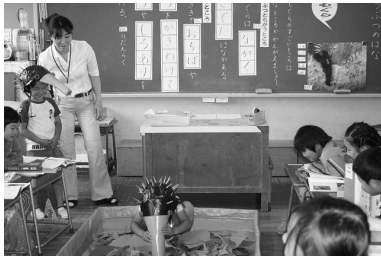
平成20年度の電子カルテ「やまびこ」に入力された子どもの情報は、約1,200件であった。一人の児童について何人かの職員が記録した情報を取り出し、その子についての理解を深め、指導の方法や支援のしかたについて、全職員で共通理解を図ることができた。平成20年度の4月では、映像情報（児童の絵、作文等）の登録を学級単位でしかできなかったが、映像関係プログラムのカスタマイズを進め、年度末には個人単位で登録できるようになった。

6. 研究の成果と今後の課題

研究課題「電子カルテの活用により、共に学び高め合う三和っ子の育成～国語の授業を中心に、全職員で取り組む研究の日常化～」の実践研究を行ったところ、次の成果が得られた。

（1）全職員による国語の授業研究会

全職員が国語の研究授業を実施する。本校以外の外部講師を招聘し、全職員による国語の授業研究会を各学年1回の年間7回行い、次の授業記録がデータとなった。1年国語「なになにかなーどうぶつのはなー」、2年国語「たんぼぼクイズ大会をしようーたんぼぼのちえ（光村図書）ー」、3年国語「お祭りガイドブックをつくろうー『つな引きのお祭り』ー」、4年国語「ぼくもわたしも新聞記者！



ー『アップとルーズで伝える』（光村図書）ー」、5年『『動物研究所』動物博士の説明文を1組の子に紹介しよう』、6年国語「平和サミット2008ー平和のとりでを築くー」、「オリジナル辞典をつくろうー言葉の意味を追ってー」の授業研究会を通して、職員の授業力が高まった。

（2）研究の日常化

「金朝研」の時間に、「研推だより『和』」を中心に全職員で研修を進め、1年間で34号まで発行することができた。この研修を通して、職員の国語の授業作りの力が高まった。ま

た、日々の子どもの活動を記録する中で、子どもの理解が深まった。

今後の課題として、①今年度得られたデータ（映像を含め）の活用を図る、②今後も継続してデータの収集を進める、③学校のICT化を進めるという3つを行い、「共に学び高め合う三和っ子の育成」をめざし、全職員で研究の日常化を進めたい。また、「学校はパラダイス」を合言葉に子どもにとっても、職員にとっても楽しい学校作りに取り組みたい。